

介護ロボット導入計画書

法人名 ( 北医療生活協同組合 )  
 介護事業所名 ( 生協わかばの里 )  
 介護保険事業所番号 ( 2350380024 )  
 サービス種別 ( 介護老人保健施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	エスパンシアシリーズベッド (離床CATCHERⅢ内蔵)

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月1日	80	令和4年12月1日	

(1) 事業概要及びスケジュール

ベッド内蔵離床センサー離床CATCHERを搭載した「エスパンシアシリーズベッド (KA-NI421R)」を導入し、転倒・転落を防ぐと同時に、その原因について見守り支援機器を活用し、多職種で改善策を検討していく。

- ◎令和4年11月の全職員会議にて職員に導入目的、取り扱い説明を行う。
- ◎令和4年12月機器導入
- ◎年度ごとに導入効果等報告

(2) 導入する意義・目的

ロボットというテクノロジーを活用することで介護の質を維持・向上させていくこと、業務の効率化を実践しながら、かつ安全をより高めていく。また利用者の様々な動作を検知し、その分析を行うことにより、安心して生活していただけるような環境を作り出す。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・転倒・転落事故件数 導入前に比べて20%削減。
- ・看護・介護職員の夜間業務の負担軽減。
- ・夜勤を行う職員の離職率13%以下 (2020年度介護業界離職率14.9%)
- ・介護ロボット使用について抵抗感がないと感じる職員が70%以上。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・高齢者介護施設において、大半を占める転倒・転落事故の減少。
- ・転倒の原因把握や防止策を検討する。
- ・対応の優先順位や緊急度の判断力が上がる。
- ・過剰な訪室を減らし、ケアにかかる時間の軽減する。それにより、利用者向き合い時間を創設する。
- ・在宅復帰を目的とする家族へ夜間帯の様子を客観的に伝える。そして対応一緒に考える。

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の 3 / 4 の要件の確認  
 ※補助率 3 / 4 の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	◎	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	エスパ <del>イ</del> シリーズ（離床CATCH内蔵）		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
ICT機器の製品名	iPad		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	ワイズマン		

⑤従前の介護職員等の人員体制  
 常勤換算 30.5人

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制  
 常勤換算 29.5人

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

- ・転倒リスクの高い複数の要介護者を同時に状況把握を行い、優先順位をつけて対応を行う。
- ・介護記録ソフトへ記録し、多職種で情報共有できるようにする。
- ・夜間帯にベッドから離れるなどの状況をiPadで動画撮影し、夜間帯の動きを共有する。家族にも伝え、共通の認識とする。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

- ・過剰な訪室を減らし、ケアにかかる時間の軽減する。それにより、利用者向き合う時間を創出する。
- ・入所者の出来るだけ自由に行動したいという思いの尊重をする。
- ・見守り支援機器を対象者の視野に入れることなく、従来の不快さを消失させる。
- ・夜間帯の不眠、予期せぬ行動を把握し、原因を追究することにより、日中の活動性の向上を改善する。
- ・夜間帯、交代での休憩中安心して体を休める環境づくりを行う。

介護ロボット導入計画書

法人名 ( 医療法人福友会 )  
 介護事業所名 ( 介護老人保健施設はつ田 )  
 介護保険事業所番号 ( 2350580045 )  
 サービス種別 ( 介護老人保健施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	眠りScan

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
2023年2月	96台	2023年1月	

1) 事業概要及びスケジュール

**事業概要**  
 見守り支援システム「眠りSCAN」を使用することにより、利用者様の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数）をリアルタイムで可視化し、業務の効率化・介護従事者の負担を軽減する。また、状況に合わせてのケアを行うことにより、利用者様に提供するケアの質の向上を図る。

**導入スケジュール**  
 補助金交付決定後、速やかに導入する。（令和4年度、2月導入予定）

(2) 導入する意義・目的

職員の精神的・身体的負担の軽減。利用者様への提供サービスの質の向上。

3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・リアルタイムに可視化される利用者様の睡眠状況に合わせ、見回り業務、排泄のケアを行う。
- ・居室内での転倒事故件数を削減させる。（数値目標 30%削減）
- ・離職率を低減させる。（数値目標 30%削減）
- ・リアルタイムモニターにて利用者様の状況を把握することにより、夜勤職員の負担を軽減をさせる。（数値目標 巡視5回→3回、見守り業務30%削減）

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・利用者様の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現。利用者様のQOLの向上。
- ・職員の精神的・身体的な負担の軽減。

・利

(5)適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	眠りScan		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定	○	既に導入済み	
ICT機器の製品名	arrows BZ02 スマートフォン		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名	ケア記録オプション		

⑤従前の介護職員等の人員体制

看護職員10.3名、介護職員23.3名

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

看護職員10.3名、介護職員23.3名

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。  
 ・「眠りSCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するスマートフォンに動きのあった入居者様の情報が入り、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進する。  
 ・眠りSCANのモニターを見ながら、タブレットにて介護記録を入力することにより、記録業務低減、安全な見守りにつなげる。  
 ※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。  
 余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、スマートフォンにて入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避け、覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行うことにより、利用者の睡眠時間を確保する。  
 ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC、スマートフォン・タブレット端末にて、リアルタイムの各入居者様の情報を確認することができるため、休憩時間の確保につなげる。  
 ・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更することにより、訪室回数を減らし負担軽減につなげる。



介護ロボット導入計画書

法人名 ( 医療法人中野会 )  
 介護事業所名 ( グループホームRU・RU・RU )  
 介護保険事業所番号 ( 2392400186 )  
 サービス種別 ( 認知症対応型共同生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	リコーみまもりベットセンサーシステム

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
2023年1月	2	2023年1月	

1) 事業概要及びスケジュール

- ・見守り業務の効率化を図り、日中夜間の業務負担を軽減する。
- ・サービス向上に繋げる。
- ・交付決定通知到着後30日以内に導入する。
- ・導入後に事業者より職員への製品勉強会を実施する。

(2) 導入する意義・目的

- ・入居者の転倒・転落、皮下出血等の減少に繋げる。
- ・入居者の行動把握と分析を行い、支援に活かす。
- ・介護スタッフの業務を軽減する。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

【現状】

- ・入居定員18名に対し、常時見守りが必要な入居者が15名とほぼ全員となっている。また、認知症の症状も重度化してきており、転倒・転落・皮下出血等の件数も増加し、月に4、5件ある。
- ・夜間2名の介護スタッフが、2時間に1回の巡回を行い、入居者の状況を確認しているが、特に見守りが必要な入居者4名に対しては、定期巡回の間にさらに随時の追加巡回が発生している。

【目標】

- ・入居者の転倒・転落・皮下出血等の事故を月平均2、3件 (50%減) にする。特に見守りが必要な入居者の追加巡回は、センサー検知時のみとし業務負担を軽減する。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・入居者の転倒転落を未然に防止する。
- ・入居者の夜間の不安行動を把握をし、事前に支援介入することで、入居者の睡眠確保をし、日中の活動量を増やす。
- ・介護スタッフの業務負担を軽減する。

(5)適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認  
※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	◎	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	リコーみまもりベッドセンサーシステム		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	◎
ICT機器の製品名	iPad		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	◎
介護記録ソフトの製品名	ワイスマン		

⑤従前の介護職員等の人員体制 15人

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制 15人

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

・見守り業務に時間や負担がかかっており、常に周囲を気にしている環境下で、入居者とのコミュニケーションにかけられる時間が少ない。そのため、人員体制はそのまま継続を見込んでいる。時間が削減できれば、レクリエーションやコミュニケーションなど他の業務に人員を活用する。また、入居者が料理、洗濯、掃除など活動量を増やせるように働きかけ、業務負担の軽減のみでなく、サービス向上に繋げられるように取り組んでいく。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

・巡視前に見守り機器のモニター画面を確認することで、入居者の状況を把握し、対応の優先順位づけを行う。  
・見守り機器の導入により、入居者のアラーム発報のタイミングを知ることができ、生活パターンや傾向を理解することができるために、夜間帯で言うならば、訪室するタイミングを調整し、眠りの妨げにならないように対応する。

## 介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社サンメディック東浦 )  
 介護事業所名 (介護付有料老人ホーム敬愛苑藤江 )  
 介護保険事業所番号 ( 2375701782 )  
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	見守り介護ロボット aams

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月頃	3台	令和4年12月頃	

## (1) 事業概要及びスケジュール

(事業概要) 見守り介護ロボットaamsを導入し、転倒・転落事故の予防を図ると共に、これまで詳細な把握が困難であった睡眠や生活リズムを把握することで、職員の負担軽減と業務の効率化、個別ケアの質向上に繋げていく。  
 (スケジュール) R4年9月に申請。交付決定の承認後、速やかに導入及び取扱い説明会を実施し運用を開始する。以降、運用状況を確認し、実績報告を行う。

## (2) 導入する意義・目的

見守り介護ロボットaamsを導入することで、看取りの方の心拍状況の把握と、転倒・転落事故の予防を図る。また生活リズムや睡眠状況を把握することで、職員の負担軽減や業務の効率化を目指すことができる。

## (3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

aamsを導入することで、認知症患者への対応の迅速化、重度化した入居者様の心拍の把握を行い、介護従事者への時間短縮、精神的・肉体的ストレスの軽減ができ円滑な見守りが可能になる。また業務負担軽減による職員の意欲向上と離職率の低下を図る。業務の効率化を図りながら、ケアの質を高め、転倒や転落事故を未然に防げるような体制づくりを行っていく。

## (4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

aamsを導入することで、人員体制を効率的に運用できるようになり、介護従事者の負担軽減が期待できる。また、介護従事者の負担軽減に関する取り組みを行うことによって、離職の防止に繋げることもできる。入居者様のケアに関してはaamsの導入により、入居者様の睡眠の妨げになるような不要な訪室を減らすことができ、生活リズムや心拍の状態の把握によって、より入居者様の状態に合わせたきめ細かなケアを実践できる。

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	見守り介護ロボット aams		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
ICT機器の製品名	交互通話・中継対応特定小電力トランシーバー		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	ほのぼのNEXT		

⑤従前の介護職員等の人員体制

入居者2.5人に対して職員1人

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

入居者2.8人に対して職員1人

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

見守りセンサーの導入やインカム、介護ソフトを活用し職員同士のコミュニケーションの効率化を図る。今までは動きの予測は難しかったため巡視の回数を多くとっていたが、aamsの導入により効率的な巡視を行うことができる。またインカムの活用により職員同士のコミュニケーションが円滑になり業務の無駄な動きが少なくなった。これらを活用することで、施設全体の人員配置を最低基準は保ちながらも日中の職員配置を緩和することができる。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

・職員同士のコミュニケーションの円滑や業務の無駄な動きを見直し、残業時間を1人当たり月に2時間は短縮する。記録作成など業務のタイミングを見直すことで、夜勤時間の見直しや業務時間帯の見直しを図る。  
・入居者様のケアの質の向上を目指し、各入居者担当に見守りセンサーを設置後の入居者様の状態を3カ月に1度検討することでケアの質の向上を図る。



介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社サンメディック豊田 )  
 介護事業所名 (介護付有料老人ホーム敬愛苑 )  
 介護保険事業所番号 ( 2373002290 )  
 サービス種別 ( 特定施設入居者生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	見守り介護ロボット aams

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月頃	3台	令和4年12月頃	

(1) 事業概要及びスケジュール

(事業概要) 見守り介護ロボットaamsを導入し、転倒・転落事故の予防を図ると共に、これまで詳細な把握が困難であった睡眠や生活リズムを把握することで、職員の負担軽減と業務の効率化、個別ケアの質向上に繋がっていく。

(スケジュール) R4年9月に申請。交付決定の承認後、速やかに導入及び取扱い説明会を実施し運用を開始する。以降、運用状況を確認し、実績報告を行う。

(2) 導入する意義・目的

見守り介護ロボットaamsを導入することで、看取りの方の心拍状況の把握と、転倒・転落事故の予防を図る。また生活リズムや睡眠状況を把握することで、職員の負担軽減や業務の効率化を目指すことができる。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

aamsを導入することで、認知症患者への対応の迅速化、重度化した入居者様の心拍の把握を行い、介護従事者への時間短縮、精神的・肉体的ストレスの軽減ができ円滑な見守りが可能になる。また業務負担軽減による職員の意欲向上と離職率の低下を図る。業務の効率化を図りながら、ケアの質を高め、転倒や転落事故を未然に防げるような体制づくりを行っていく。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

aamsを導入することで、人員体制を効率的に運用できるようになり、介護従事者の負担軽減が期待できる。また、介護従事者の負担軽減に関する取り組みを行うことによって、離職の防止に繋げることもできる。入居者様のケアに関してはaamsの導入により、入居者様の睡眠の妨げになるような不要な訪室を減らすことができ、生活リズムや心拍の状態の把握によって、より入居者様の状態に合わせたきめ細かなケアを実践できる。

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認  
※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。 ○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	
---------	---	--------	--

見守りセンサーの製品名	見守り介護ロボット aams		
-------------	----------------	--	--

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

ICT機器の製品名	交互通話・中継対応特定小電力トランシーバー		
-----------	-----------------------	--	--

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

介護記録ソフトの製品名	ほのぼのNEXT		
-------------	----------	--	--

⑤従前の介護職員等の人員体制	入居者2.5人に対して職員1人		
----------------	-----------------	--	--

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制	入居者2.8人に対して職員1人		
----------------------------	-----------------	--	--

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

見守りセンサーの導入やインカム、介護ソフトを活用し職員同士のコミュニケーションの効率化を図る。今までは動きの予測は難しかったため巡視の回数を多くとっていたが、aamsの導入により効率的な巡視を行うことができる。またインカムの活用により職員同士のコミュニケーションが円滑になり業務の無駄な動きが少なくなった。これらを活用することで、施設全体の人員配置を最低基準は保ちながらも日中の職員配置を緩和することができる。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

・職員同士のコミュニケーションの円滑や業務の無駄な動きを見直し、残業時間を1人当たり月に2時間は短縮する。記録作成など業務のタイミングを見直すことで、夜勤時間の見直しや業務時間帯の見直しを図る。  
・入居者様のケアの質の向上を目指し、各入居者担当に見守りセンサーを設置後の入居者様の状態を3カ月に1度検討することでケアの質の向上を図る。

介護ロボット導入計画書

法人名 ( 社会福祉法人 薫風会 )  
 介護事業所名 ( 特別養護老人ホーム 第二大和の里 )  
 介護保険事業所番号 ( 2373900196 )  
 サービス種別 ( 介護老人福祉施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	エスパシアシリーズベッド (離床センサー内臓)

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年2月	76台	令和4年12月	

1) 事業概要及びスケジュール

エスパシアシリーズ (離床センサー付きベッド) を導入し、利用者様の動き (起き上がり、端坐位、離床、見守り) を把握し、利用者様の転倒、転落等、事故防止、リスクの早期発見に活用していく。また、介護スタッフの見守り業務の心理的負担の軽減と業務の効率化を図っていく。導入は、補助金交付決定後速やかに発注し、令和5年2月に購入予定。使用方法、設定方法については、導入前に説明を行い、導入後スムーズに使用できるよう個々の設定をシミュレーションしておく。

(2) 導入する意義・目的

利用者が重度化し、身体状況の低下、認知症による判断能力の低下により転倒・転落等のリスクが高い利用者の方が多く入所されている。現在は高リスクの利用者に床置きセンサー、背面センサーを使用しているが、細かな設定が行えず利用者の行動分析を行えていない。エスパシアを導入し、センサー対応かつ低床対応を利用者ごとに行い事故防止に努めていく。また、機器の導入により、見守り業務 (特に夜間帯) の業務効率の向上と負担軽減を図る。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・見守り機器、低床対応を個々の利用者にあった設定にすることで、見守り機器とナースコール、PHSの連携を図り、迅速な対応、職員間の情報共有を密にする。
- ・利用者様の行動を把握することで事故発生リスクの軽減を図る。
- ・職員の身体的・心理的負担の軽減、業務効率の向上を図る。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・見守り機器、低床対応を個々の利用者にあった設定を行うことにより正確な情報が職員に届く為、いち早く利用者様のもとに駆けつけることができ、事故のリスク軽減に繋がる。
- ・利用者の事故のリスク回避や行動分析に使用することで、職員間の情報共有を密に行うことができ、職員が安心してケアを行うことができる。また、利用者様のアセスメントのツールとしての効果が期待できる。

(5)適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

- ※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
- ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組



介護ロボット導入計画書

法人名 ( 社会福祉法人淳涌界 )  
 介護事業所名 ( 特別養護老人ホームおふくろの家 )  
 介護保険事業所番号 ( 2377500323 )  
 サービス種別 ( 介護老人福祉施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	見守り介護ロボット aams

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年1月1日	4	令和5年1月1日	

(1) 事業概要及びスケジュール

・事業概要  
 見守り介護ロボットaamsの導入により、入所者様の各情報(心拍・呼吸・睡眠・体動・離床)をリアルタイムで可視化することが可能になる。入所者様の見守り強化と介護職員の業務効率の向上、身体的・精神的負担を軽減する。

・スケジュール  
 交付決定後、速やかに導入する。  
 (申請) 令和4年9月  
 (通信環境整備) 令和4年12月  
 (aams運用開始) 令和5年1月

(2) 導入する意義・目的

見守り介護ロボットaamsの導入により入所者様の見守り強化と介護職員の負担を軽減することを目的としている。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・入所者様の夜間の睡眠を妨げないように適切なタイミングでの居室訪問を実施し、入所者様のより良い睡眠を目指す。
- ・モニターで入居者様の状態確認(心拍・呼吸・睡眠・体動・離床)ができるため、質の高いケア向上を目指す。
- ・居室訪問の数を減らし、介護職員の業務効率向上と身体的・精神的負担の軽減を目指す。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・夜間に状態確認を行い睡眠を妨げないで居室訪問を行いケアを行うことができる。
- ・各情報(心拍・呼吸・睡眠・体動・離床)をもとにケアプランの見直しに活用することができる。
- ・モニターにて入所者様の状況を確認することが可能となり、居室訪問の回数が減り夜間帯の介護職員の身体的・精神的負担を軽減することができる。
- ・見えるかされたデータをもとにご家族に詳細な状況報告をすることができる。

## (5)適用を受けようとする補助率

1/2/

## (6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

## ②見守りセンサーについて

今年度導入予定

既に導入済み

見守りセンサーの製品名

## ③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定

既に導入済み

ICT機器の製品名

## ④介護記録ソフトについて

今年度導入予定

既に導入済み

介護記録ソフトの製品名

## ⑤従前の介護職員等の人員体制

## ⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

## ⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

## ⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 ( (株)ニッケ・ケアサービス )  
 介護事業所名 ( ニッケあずも一宮 )  
 介護保険事業所番号 ( 2372203428 )  
 サービス種別 ( 特定施設入居者生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	Hi homeQケアサポート

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年3月1日	58台	令和4年12月末日	

1) 事業概要及びスケジュール

居室の天井に取り付けた行動分析センサーで入居者様の危険行動を感知・認識して介護スタッフのスマートフォンに起床・離床・転倒といった分析結果とともに映像を送付する。またそれらの映像は転倒・転落時のエビデンスとなり、原因の推測と対策検討が可能となり、業務効率化とケア品質向上が期待できる。また、介護スタッフ間の情報共有ツールとケア記録の機能も備わっている。

<導入スケジュール>

交付決定後に速やかに発注し、導入準備を進める。令和4年12月発注し、令和5年3月使用開始予定。

2) 導入する意義・目的

入居者様の行動分析により、業務効率化を図ると共に、より適切な介護サービスを提供することにより介護サービスの質の向上を目指す。

3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

現在、ニッケあずも一宮では58人(満床時)においては、夜勤帯に介護スタッフ4人が対応しており、これを介護ロボット導入により3人とする。また、日勤帯においては、早番4人、日勤4人、遅番4人の合計12人体制であるものの、これを1.5人削減し、その人員については、入居者様とのコミュニケーション等に充て、入居者様の満足度向上を目指していく。

従って、夜勤人員については年間労働時間5,840時間の削減(16時間×1人×365日)、日中については年間4,380時間(8時間×1.5人×35日)を入居者様との更なるコミュニケーション等に充てることとなる。

4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

入居者様のより精緻な行動分析が可能となり、定期的な訪室ではなく、入居者様の必要に応じたケアができるようになる。介護スタッフはそれを継続的に実行することにより、入居者様の健康状態等の把握するレベルが高まり、介護サービスの質の向上も見込まれる。

また、転倒等の事故発生時の原因の究明が容易となり、施設全体としてのリスクマネジメントのレベル向上も期待できる。

従って、業務効率化による経費削減だけでなく、介護スタッフの技能向上、施設としての介護サービスレベル、リスクマネジメント能力の向上が期待できる。

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

- ※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
- ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	HitomeQケアサポート		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定	○	既に導入済み	
ICT機器の製品名	スマートフォン (Apple製iPhone)		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	ほのぼのNEXT		

⑤従前の介護職員等の人員体制

夜勤帯4人、日勤帯12人

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

夜勤帯3人、日勤帯10.5人

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

- (1) 見守りセンサー導入により、入居者様の行動をより精緻に把握することができるようになる為、定期的な訪室を控え、入居者様の必要なタイミングでおむつ交換等のサービス提供ができるようになり、業務の効率化が図れる。
- (2) インカムの活用により、業務連絡にかかる時間の短縮と今まで以上の情報共有が可能となる。
- (3) 介護記録については、紙ベースからシステム入力への変更を予定しており、それにより業務の効率化・標準化を図り、情報共有が容易になることより、介護サービスの質の向上につなげる。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

- (1) 介護記録をシステム入力とすることにより、介護スタッフ、看護師、ケアマネ、管理者全員が、入居者様の全情報をいつでも見ることができるようになり、この情報共有により介護サービスの質は格段に向上すると期待している。また、ご家族様や訪問診療時の医師、救急搬送時の救急隊員へも、タブレットにデータを保存することで、適切にわかりやすく入居者様の状態を説明することができるようになる。
- (2) 夜勤帯においては、実質的には2人で介護業務に対応し、1人は待機的役割とする予定。日勤帯は1.5人を通常業務から外れるため、これらの余裕人員により休憩時間等は適切に確保できる見込み。



介護ロボット導入計画書

法人名 ( 株式会社波の女 )  
 介護事業所名 ( グループホーム滝子通一丁目 )  
 介護保険事業所番号 ( 2390700124 )  
 サービス種別 ( 認知症対応型共同生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	眠りSCAN

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
2023年1月	18台	2023年1月	

<p>(1) 事業概要及びスケジュール</p> <p>【事業概要】                  ○グループホームの居室全18室に「眠りSCAN」を導入する。                  ○「眠りSCAN」で、利用者の睡眠時における心拍数・呼吸数等の情報を把握でき、居室外に居る職員にその情報が届くとともに、職員が、覚醒や体動から起き上がり離床までの情報をリアルタイムで捉えることができるようにする</p> <p>【スケジュール】                  ○2023年1月に導入し、約3か月間の習得期間を経て、2023年4月からは安定稼働に移行させる予定</p>
<p>(2) 導入する意義・目的</p> <p>眠りSCANを導入する意義や目的は                  ○居室内の入居者の状態・行動を居室外の職員に可視化できるので、必要な時に必要に応じて対応することができる。そのことで、入居者やご家族にとっての安心感が増すとともに、職員にとっても不安感が減少し精神的負担軽減につながるとともに、定型的な居室訪問から必要に応じた随時訪問へと転換できることも負担軽減につながる</p> <p>○入居者の体動をリアルタイムで把握できるので、居室内での転落や転倒事故を防ぐことができる                  ○職員の不要な入室による睡眠への悪影響を抑え、安寧な睡眠状態を提供できる。                  ○睡眠状態がデータ化されるので、主治医へ客観的な情報提供ができ、適切な処方を受けられる。同時に、居室内に滞在する時間における介護計画を正確に立てることができ、必要な支援を行える。                  ○連携する介護ソフトで睡眠状態を介入内容とを一画面化し、介入内容について適切にレビューできる。</p>

(3)介護ロボットの導入により達成すべき目標（導入後3年間）

- 夜間巡視を定型的に行う「定期巡視」から、眠りSCANの情報に基づき必要に応じて行う「随時居室訪問」に転換する。同時に職員の負担軽減効果測定する
- 入居者の居室内での転倒事故が昨年度12件でしたが、導入後3年以内にゼロ件とする
- 連携する介護ソフトの導入効果も併せて職員の記録に要する平均時間数を1勤務（8時間）当たり最大時で90分程度要している時間数を50%削減し且つ、記録内容に差異がないようにする。そのことで1勤務平均30分程度記録時間を削減し、1日あたり2時間程度（4勤務）の時間を生み出せ、入居者へ直接かかわる時間数を増やす、記録のための超過勤務を削減する。併せて介護計画作成担当者が計画作成に要する時間数の削減を図る。
- 介護初心者や海外人材が安心して夜勤ができる環境となり、現勤務者で今後三年間に高齢期を迎える2名の離職防止と海外人材1名から2名へ増員する

(4)介護ロボットの導入により期待される効果等

- 期待される効果
- 居室内の入居者に対して「必要な時に必要に応じて対応する」ことができ、入居者やご家族にとっての安心感が増す。
  - 職員にとって、見えない場所で起こりうることに対する不安感が減少し精神的負担軽減につながるとともに、定型的な居室訪問から必要に応じた随時訪問へと転換できることも負担軽減につながる
  - 居室内の転落や転倒事故を防ぐことができる
  - 入居者に安寧な睡眠を提供できる。
  - 主治医へ客観的な情報提供ができるので適切な治療へとつなげることができる。
  - 入居者の居室内滞在時間における介護計画を正確に立てることができ、必要な支援を行える。
  - 連携する介護ソフトで睡眠状態を介入内容とを一画面化し、介入内容について適切にレビューできる。

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

- ※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
- ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。 <span style="float: right;">○</span>			
②見守りセンサーについて			
今年度導入予定	○	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	眠りSCAN		
③インカム・スマートフォン等のICT機器について			
今年度導入予定		既に導入済み	○
ICT機器の製品名	iPhone, iPad		

④介護記録ソフトについて			
今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	CAREKARTE		
⑤従前の介護職員等の人員体制	<p>グループホーム事業所に二つの共同生活住居（定員各9名）を有し、各共同生活住居ごとの介護職員配置は、①日勤者8時間（9時～18時）②遅勤者8時間（11時～20時）③夜勤者（入り）16時～24時④夜勤者（明け）0時～11時となっている。日中時間帯（5時～22時）に総配置時間数28時間、夜間及び深夜の時間帯（22時～5時）に4時間（休憩3時間）である</p>		
⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制	<p>現状、1勤務（8時間）当たり最大時で90分程度要している時間数を50%削減、1勤務平均70分程度から30分程度記録時間を削減することで、1日あたり2時間程度（4勤務）の時間を生み出せる。この時間分を削減するのではなく、入居者へ直接かかわる時間数を増やす、記録のための超過勤務を削減する。併せて介護計画作成担当者が計画作成に要する時間数の削減を図っていく。</p>		
⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容			
<p>○既存の介護システムCAREKARTEと連携させることで、発報データの自動記録化とシステム上の介護記録と一体的にアセスメントできることでより良質な介護サービスが提供できる。          ○手元のiPhoneやiPadでも、発報がキャッチから状態確認までできるので、複数が起こっても的確な優先順位をつけて介助することができる。          ○上記により、良質なサービスを提供でき、利用者の安寧な生活、スタッフのさらなる負担軽減が図れることで、人員配置基準が決められている中で人員配置の削減よりも間接業務時間の削減で入居者に直接かかわる介護職本来の業務時間数を改善でき、介護職員のモチベーションアップ、入居者の生活のQOL向上を図る</p>			
⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組			
<p>○眠りSCANの導入で、居室内で睡眠中の入居者の状態情報が居室外の職員に届くので、状態確認のための入室を減らすことができ、利用者に良質な睡眠を提供することができる。          ○眠りSCANの導入で、居室内の入居者の体動を居室外にいる職員がリアルタイムで知ることができるため、職員が入居者の状態把握をリアルタイムで行えるため転落や転倒防止効果は高く、そのことによる入居者へのダメージを大幅に軽減できる。          ○眠りSCANの導入で、居室への定型的な巡視から随時巡視へ転換でき、職員の負担軽減を図れる。同時に、居室内の入居者の状態情報が居室外の職員にリアルタイムで届くので職員の安心感が大幅に高まり精神的負担軽減を図れる          ○眠りSCANのデータが介護ソフトに自動連係されるので、記録負担の軽減ができる。          ○眠りSCANは、設定によって他のユニットの状態もモニターできるので、設定を切り換えてモニターをユニット間で協力して見てあげるにより、夜間スタッフが休憩を確実にとることができる。</p>			



介護ロボット導入計画書

法人名 ( 社会福祉法人等生会 )  
 介護事業所名 ( 特別養護老人ホームかくれんぼ )  
 介護保険事業所番号 ( 2390300289 )  
 サービス種別 ( 地域密着型介護老人福祉施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	眠りSCAN NN-1520 無線接続タイプ

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月	26	令和4年12月	

1) 事業概要及びスケジュール

事業概要：すでに3台眠りSCANの導入を実施しているが、通信環境を整備し、導入台数を増やすことにより介護職員の見守り業務の負担の軽減を図り、特に利用開始時の利用者様の情報が十分でない場合の夜間の睡眠状態を把握できることで、夜勤者の精神的な業務負担の軽減を図っていきます。  
 導入スケジュール： 交付決定後発注 12月以降無線環境設置工事を行い、眠りSCAN導入後順次環境確認等と並行し職員への説明を実施

(2) 導入する意義・目的

ご利用者様の情報(離床・呼吸数・心拍数他)をリアルタイムで把握・可視化することで、状況に合わせたタイムリーな個別ケアを実現させる。可視化により夜勤の定期巡回の無駄を省くことで、介護職員のストレス軽減と安心感を向上させる。

3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

情報の少ない新規の利用者様や転倒リスクの高い利用者様への活用を行うことにより、職員の業務負担、特に精神的な負担を減らしていく。  
 夜勤中のベッドからの離床時の転倒・転落のリスクを減らし、事件件数の減少を図る。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・夜間の睡眠状態の把握により、より安眠を保てる排泄ケアの提供による。
- ・利用者の転倒や転落のリスクを軽減する。
- ・訪室回数を減らせることにより、夜勤者の介護負担の軽減を図る。
- ・睡眠データの集積により、利用者様の情報収集に努めてケア方法の改善に繋げていく。
- ・家族様・担当ケアマネージャーへの睡眠状態の報告により在宅生活のケア内容の改善につながる情報の提供を行う

(5)適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。 ○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	○
見守りセンサーの製品名	眠りSCAN NN-1520 無線接続タイプ		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定	○	既に導入済み	○
ICT機器の製品名	I PAD		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	ほのぼのNEXTクラウド		

⑤従前の介護職員等の人員体制 29人に対し2人の勤務者

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制 夜間帯の可視化によりエビデンスに基づく新人指導を実施できるため、理解しやすくなり指導しやすくなる。

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

眠りスキャン（見守りセンサー）とICT機器（i pad）を活用することで、ベッド上の動作を映像で確認したり、睡眠時の状態の把握が可能になるため、緊急時の的確な判断やターミナルケア時の適切なタイミングでのかわりや対応ができる。また、夜間帯の定期巡回の無駄を省き介護職員の負担軽減に繋げる。さらに眠りスキャンで入手したデータを介護記録に入力、活用して、利用者生活リズムを把握し、個別ケアの質の向上と生産性向上に取り組みます。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

情報をご家族やケアマネージャー、介護従事者と共有し睡眠導入剤の投薬効果の検証に役立てる。また、夜勤者の負担軽減のため居室で過ごすご利用者様の状態を見える化することで、巡視の回数を減らす。

## 介護ロボット導入計画書

法人名 ( 株式会社サンケイ )  
 介護事業所名 ( グループホームチアフル夢明かり・幸明かり )  
 介護保険事業所番号 ( 2393800210 )  
 サービス種別 ( 認知症対応型共同生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	眠りSCAN

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
2023年1月	18台	2023年1月	

## 1) 事業概要及びスケジュール

## 【事業概要】

グループホームの居室全室に「眠りSCAN」を導入する。

眠りSCANで、利用者の睡眠状態、心拍数・呼吸数等の情報を見ながら介護することでスタッフの負担軽減を図る。

## 【スケジュール】

2023年1月に導入し、約3か月間の習得期間を経て、2023年4月からは安定稼働に移行させる予定

## (2) 導入する意義・目的

- ①睡眠状態を把握できるので、夜間の全体巡視に係るスタッフの負担軽減を図る
- ②『①』に伴い、利用者の不要な巡視による睡眠妨害を回避でき安寧な睡眠状態を提供できる。
- ③睡眠状態がデータ化されるので、主治医へ客観的な情報提供ができ、適切な処方を受けられる。
- ④連携する介護ソフトで睡眠状態を介入内容とを一画面化し、介入内容について適切にレビューできる。

## 3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ①夜間の定期巡視を撲滅 (現在夜間帯：4回→0回に)
- ②利用者の夜間の事故撲滅 (昨年度8件→導入後3年0件に)
- ③日中の基準を超えたスタッフを削減できる (現在1.5人の基準超過人員→3年後0人に)
- ③外国人や介護初心者にも安心して夜勤ができる環境が提供できている。  
(現在外国人夜勤者4人→導入後3年で6人に)

## (4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ①ベッド上での睡眠状態やバイタルデータが既存の介護ソフトに自動転記されるので、記録に係る負担軽減が図れる。
- ②医師、薬剤師、家族に利用者の睡眠状態・バイタル等を一覧化したデータが自動的に作成されることで当該資料作成に係る負担軽減が図れる。

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	眠りSCAN		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
ICT機器の製品名	iPhone, iPad		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	ワイズマン		

⑤従前の介護職員等の人員体制  
 介護職員 常勤11名 非常勤6名 (常勤換算13.2人)

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制  
 介護職員 常勤10名 非常勤5名 (常勤換算12.0人)

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

既存の介護システムワイズマンと連携させることで、発報データの自動記録化とシステム上の介護記録と一体的にアセスメントができることでより良質な介護サービスが提供できる。  
 手元のiPhoneやiPadでも、発報がキャッチから状態確認までできるので、複数が起こっても的確な優先順位をつけて介助することができる。  
 上記により、良質なサービスを提供でき、利用者の安寧な生活、スタッフのさらなる負担軽減が図れることで、夜間は人員基準として現人員を削減できないが、日中の基準を超えたスタッフが削減できる。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

夜間、不要な定期巡視を回避することで、利用者に良質な睡眠を提供し、スタッフの軽減が図れる。  
 眠りSCANのデータが介護ソフトに自動連係されるので、記録負担の軽減ができる。  
 眠りSCANは、設定によって他のユニットの状態もモニターできるので、設定を切り換えてモニターをユニット間で協力して見てあげるにより、夜間スタッフが休憩を確実にとることができる。

## 介護ロボット導入計画書

法人名 ( 社会福祉法人 永熊会 )  
 介護事業所名 ( 地域密着型特別養護老人ホーム きらめき )  
 介護保険事業所番号 ( 2391400211 )  
 サービス種別 ( 地域密着型特定施設入居者生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	眠りSCAN

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
2023年2月	12台	2023年1月	

## (1) 事業概要及びスケジュール

## 事業概要

見守り支援システム「眠りSCAN」を使用することにより、利用者様の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数）をリアルタイムで可視化し、業務の効率化・介護従事者の負担を軽減する。また、状況に合わせてのケアを行うことにより、利用者様に提供するケアの質の向上を図る。

## 導入スケジュール

補助金交付決定後、速やかに導入する。(2023年 2月導入予定)

## (2) 導入する意義・目的

職員の精神的・身体的負担の軽減。利用者への提供サービスの質の向上。

## (3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・リアルタイムに可視化される利用者様の睡眠状況に合わせ、見回り業務、排泄のケアを行う。
- ・居室内での転倒事故件数を削減させる。(数値目標:10%削減)
- ・リアルタイムモニターにて入居者様の状況を把握することにより、夜勤職員の負担を軽減をさせる。(数値目標:見守り業務20%削減)

## (4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・利用者の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現。
- ・利用者のQOLの向上。
- ・職員の精神的・身体的な負担の軽減。



(5)適用を受けようとする補助率			
3/4			
(6) 補助率の 3 / 4 の要件の確認 ※補助率 3 / 4 の適用を受けようとする場合は、記載すること。 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。			
①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。	○		
②見守りセンサーについて			
今年度導入予定	○	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	眠りSCAN		
③インカム・スマートフォン等のICT機器について			
今年度導入予定		既に導入済み	○
ICT機器の製品名	iPad		
④介護記録ソフトについて			
今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	ケアコネクトジャパン 「ケアカルテ」		
⑤従前の介護職員等の人員体制	30名		
⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制	25名		
⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容			
・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。  ・「眠りSCAN」の通知機能を活用し、動きのあった入居者様の情報がタブレットへ入り、タイムリー且つ必要な際のみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進する。 ・眠りSCANのモニターを見ながら、タブレットにて介護記録を入力することにより、記録業務低減、安全な見守りにつなげる。 ※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。 余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る。			
⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組			
・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、スマートフォンにて入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避け、覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行うことにより、利用者の睡眠時間を確保する。  ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC、タブレット端末にリアルタイムの各入居者様の情報を確認することができるため、休憩時間の確保につなげる。  ・巡視の方法を変更することにより、訪室回数を減らし休憩時間の確保につなげる。			

介護ロボット導入計画書

法人名 ( 社会福祉法人王寿會 )  
 介護事業所名 ( 特別養護老人ホーム幸王寿園 )  
 介護保険事業所番号 ( 2392000119 )  
 サービス種別 ( 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	見守り支援システム 眠りSCAN

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月1日	20台	令和4年12月1日	

1) 事業概要及びスケジュール

(事業概要)  
 見守り支援システム「眠りSCAN」を導入することにより介護職員の介護及び精神的な負担軽減を図る。個別の情報を可視化することによりケアの質の向上を図る。  
 (スケジュール)  
 補助金交付決定後に速やかに導入を行う。

(2) 導入する意義・目的

入居者様の睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍の情報をリアルタイムで把握を行う事が可能となり、見守りの強化と業務の効率化による介護負担の軽減を図る。  
 個々の状況の把握を行う事により転倒転落の軽減に繋げ介護職員の精神的負担の軽減を図る。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

介護職員の身体的及び精神的負担軽減を図ることにより離職率を20%減らす。  
 入居者様全員の睡眠状況(覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍)の把握を行い転倒・転落事故を年間発生率を30%減らす。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

入居者様の個別情報を可視化・データ化を行い介護職員が情報共有を行う事により効率よく個別ケアの実施に繋げ介護負担軽減を図る。  
 入居者様の個別情報を転落・転倒の軽減に繋げ介護及び精神的な負担軽減を図る。

(5)適用を受けようとする補助率

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	○
見守りセンサーの製品名	眠りSCAN		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
ICT機器の製品名	HUAWEI Media Pad T5		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	KitFit SilverLand		

⑤従前の介護職員等の人員体制

常勤換算16.7人

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

常勤換算16.2人

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

眠りSCANを活用して入居者個々の睡眠等のデータの可視化を行いiPadでどこでも確認できる環境にして転倒転落のリスク軽減に繋げ、職員配置の効率化を図る。  
夜間帯のリスク軽減を行う事により、夜勤職員配置加算（テクノロジー導入）要件を満たすことにより、夜勤勤務時間の見直しを行い職員配置の効率化及び負担軽減を行う。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

眠りSCANを活用して入居者個々の睡眠等のデータの可視化を行いiPadでどこでも確認できる環境にして転倒転落のリスク軽減を図ることにより介護職員の精神的負担軽減に繋げる。  
入居者様個別にどの時間に覚醒をされ、どの時間に入眠をされるのかのデータ化をすることで介護力が多く必要な時間が明確になり、介護職が必要な時間に手厚く配置することにより業務の効率化・休憩時間の確保・介護負担の軽減を図る。  
iPadから介護ソフトへの入力をいつでも・どこでも行えるようにして業務省力化を図る。

介護ロボット導入計画書

法人名 ( 社会医療法人宏潤会 )  
 介護事業所名 ( 大同老人保健施設 )  
 介護保険事業所番号 ( 2861280009 )  
 サービス種別 ( 介護老人保健施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	眼りSCAN

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
2023年2月1日	30台	2023年1月1日	

(1) 事業概要及びスケジュール

見守り
 事業概要  
 見守り支援システム「眼りSCAN」を使用することにより、入所者の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数）をリアルタイムで可視化し、業務の効率化・介護従事者の負担を軽減する。また、状況に合わせてのケアを行うことにより、入所者に提供するケアの質の向上を図る。  
 導入スケジュール  
 補助金交付決定後、速やかに導入する (2023年2月1日導入予定)

(2) 導入する意義・目的

職員の精神的・身体的負担を軽減  
 入所者へのサービス提供の質の向上

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

・リアルタイムに可視化される入所者の睡眠状況に合わせ、見守り業務や体位交換・排泄のケアを行う  
 ・居室内で居間を移動する回数を削減させる (数値目標: 50%削減)  
 ・リアルタイムモニターにて入所者の状況を把握することにより、夜勤職員の負担を軽減させる (数値目標: 巡視5回→4回、見守り業務20%削減)

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

・入所者の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現  
 ・入所者のQOLの向上  
 ・職員への精神的・身体的負担の軽減

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

- ※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
- ※「介護サービスにおける生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

◎

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	◎	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	眠りSCAN		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定	◎	既に導入済み	
ICT機器の製品名	デジタリインカム		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	◎
介護記録ソフトの製品名	寿システム		

⑤従前の介護職員等の人員体制

看護職員13名 介護職員26.8名

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

36名

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入所者の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより不要な訪室を避ける。  
 「眠りSCAN」の通知機能を活用し、従来が携帯するスマートフォンに動きのあった入所者の情報が入り、タイムリー且つ必要の際のみ職員が対応し動くことができるため、従来の「定時巡視」に比べて、効率化を推進する。  
 「眠りSCAN」のモニターを見ながらタブレット上で介護記録を入力することにより記録業務削減、安全な見守りに繋がる。  
 入所者の状況に合わせて巡視を行う。  
 インカムを使用し入所者の迅速な対応、各職員の連絡体制の効率化を図る。  
 余剰の時間に従来他勤務時間に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、スマートフォンにて入所者の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避け、最適なタイミングに合わせて排泄ケアや体位変換の訪室を行うことにより、入所者の睡眠時間を確保する。  
 スタッフステーションや休憩室にいる間もPC、スマートフォン、タブレット端末にてリアルタイムの各入所者の情報を確認することができるため、休憩時間の確保に繋がる。  
 巡視の方法を「定時巡視」⇒「適宜巡視」へ変更することにより、訪室回数を減らし負担軽減に繋がる。



## 介護ロボット導入計画書

法人名 ( 株式会社 ミッドランド )  
 介護事業所名 ( 有料老人ホーム ミッドランド知多 )  
 介護保険事業所番号 ( 2375702327 )  
 サービス種別 ( 特定施設入居者生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	aams 介護セット

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年11月	33台	令和4年11月	

## (1) 事業概要及びスケジュール

## ※事業概要

見守り機器導入によって利用者様の状況をリアルタイムで把握することができ、質の高いサービスを提供することができる。又、効率化によって介護職員の身体的、心理的負担も軽減することができる。

## ※導入スケジュール

令和4年9月申請 令和4年11月導入予定

## (2) 導入する意義・目的

見守り機器導入による介護職員の負担軽減からサービスの質の向上、提供へとつなぐ。

## (3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

見守り介護業務の効率化による職員の身体的、心理的負担の軽減。

見守り機器を効率的に活用することで利用者様の状況を把握し、転倒・転落事故を減らし、安心していただける、質の高い介護サービスの提供をすることを目標とする。

## (4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

危険動作の予兆の検知が可能となることによる転倒・転落のリスク軽減。

転倒・転落を検知できるため発生時に迅速な介助ができる。

訪室回数を減らせるため利用者様の睡眠の質の向上が期待される。

介護職員の労務負担軽減による労働環境の改善。

(5)適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。 ○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	×
見守りセンサーの製品名	aams.介護セット		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定	○	既に導入済み	×
ICT機器の製品名	Apple iPad		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	×
介護記録ソフトの製品名	ワイズマン		

⑤従前の介護職員等の人員体制  
 利用者人数：33名 介護職員：13名

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制  
 利用者人数：33名 介護職員：12名

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

見守りセンサーの導入により利用者様の状況を職員間での情報の共有化、記録業務へとつなぐ。効率的かつスムーズな対応が可能となり職員の業務、身体的、心理的負担の軽減につながる。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

利用者様の状態の変化をリアルタイムで察知、職員間での情報共有により迅速で質の高いサービスを提供することができる。  
 夜間帯など人員配置が減少の勤務帯においても転倒、転落等のリスクに対する身体的、心理的負担の軽減、休憩時間の確保等、労働環境の整備を図る。

実施要綱別紙1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入計画書

法人名 ( 医療法人社団 同仁会 )  
 介護事業所名 ( 有料老人ホーム ファミリエ )  
 介護保険事業所番号 ( 2372901336 )  
 サービス種別 ( 特定施設入居者生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	眠りSCAN

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
R4.12.31	15	R4.12.31	なし

(1) 事業概要及びスケジュール

【事業概要】  
 重度な利用者様、認知症の方の安全を守る為眠りSCANを導入し特に夜間帯の入居者様の転倒事故防止と見守り業務の効率化を図る  
 【整備スケジュール】  
 ・ 交付決定後速やかに発注  
 ・ 機器手配  
 ・ 機器設置工事実施  
 ・ 動作検証

(2) 導入する意義・目的

利用者様に対する転倒、転落事故の削減  
 利用者様の生活のリズムを把握し個別ケアの充実  
 介護職員の業務の効率や業務負担の軽減

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

転倒、転落事故の減少  
 介護職員の身体的、心理的負担の軽減

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

利用者様に対する転倒、転落事故の削減  
 認知症状のある利用者様へ不快感、拘束感を与えない為の配慮  
 記録データを活用し利用者様の生活リズムを把握し個別ケアの充実

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

◎

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	◎	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	眠りSCAN（パラマウントベッド社製）		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定	◎	既に導入済み	
ICT機器の製品名	MousePro, iPhoneSE		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	◎
介護記録ソフトの製品名	ブルーオーシャン		

⑤従前の介護職員等の人員体制

入居者様3人に対して職員1名

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

現状の3：1より改善させる

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

介護記録の電子化により情報を一元化することによりスタッフ間での情報が共有化できることや記録作成時間の短縮に繋がった。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

・個別での担当者会議でフィールドし、多様なご利用者に対応したケアの質の向上を図る。  
 ・職員のケア（業務内容）を見直すことにより、効率で適切な役割分担を検討することにより、ケアの質の向上と職員の負担の均一化や残業時間の短縮を図る。

介護ロボット導入計画書

法人名 ( 社会福祉法人和敬会 )  
 介護事業所名 ( 特別養護老人ホームなごみの郷 )  
 介護保険事業所番号 ( 2393300070 )  
 サービス種別 ( 地域密着型介護老人福祉施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	A. I. Viewlife

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年3月	10	令和5年3月	

1) 事業概要及びスケジュール

【事業概要】

自立支援の観点から、なごみの郷では身体拘束防止に対して強い決意をもって取り組んでおり、施設開所以来身体拘束ゼロを継続している。一方で、特に転倒・転落事故防止のための見守りが必要な入居者も多く、事故を防ぐために高い意識をもって取り組むスタッフの見守り業務に対する負担が大きくなっていることも実情である。そこで、見守りロボットA. I. Viewlifeの導入により、転倒・転落事故を未然に防ぐこと。また、見守り業務の効率化とそれに伴う人員の効率化、スタッフの精神的負担軽減 (夜勤時の休憩時間の確保など含む) を行っていきたい。

【導入スケジュール】

交付決定後速やかにネットワーク工事を行い、ネットワーク工事完了後導入したい。

・ネットワーク工事完了後の導入スケジュール

導入：2022年3月中

取扱説明：導入時実施

運用開始：導入から1週間後

運用説明 (メーカー)：1か月後、3か月後、6か月後以降、随時Web説明会実施

実績報告の作成：運用から1か月後に作成目標

2) 導入する意義・目的

A. I. viewlife導入の一番の意義や目的は「利用者に対するサービスの質を向上させる」ためである。利用者の転倒や転落リスクを減少させ、安心して過ごせる環境の確保を行う。見守り業務効率化によるスタッフの業務負担軽減により、効率化された時間を利用者へ充てられる環境を整備する。また、スタッフの身体的・精神的負担の軽減により、心に余裕をもった介護サービスを提供していくこと。そのために、介護ロボットに頼れる部分は頼るという考えで進めていきたい。



### (3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標（導入後3年間）

#### 具体的な事業目標

・見守りシステムからの検知通知を受け取り、訪室の優先順位を判断をすることで、通知後の訪室回数の50%減を実現する

#### 1年目

- ・スタッフ全員が、見守りシステムの操作にになれる事（見る／知る）
- ・スマートフォンやPC・タブレット等で離れた場所から訪室前に画面確認をすることで不要な訪室を50%減らす事（システム使用により、特に夜勤帯の休憩をスタッフルームでゆとりを持って取れる環境を構築する。）
- ・見守りセンサー担当者を決め、メーカーとの情報共有役となりスタッフが運用できる体制を作る

#### 2年目

- ・スタッフ全員が、センサー設置されている入居者の検知履歴データから、日常生活動作の変化に気づけるようになり、ヒヤリハットの分析や事実把握から、ケアの質を上げるためのエビデンス利用が出来るようになる事（ご家族向けにデータ保存しつつも共有できるようにすること、ケアの質向上の為に勉強会を開催する事）
- ・見守りセンサーを追加購入し、より多くの効果が得られるよう運用する

#### 3年目

- ・HPへ見守りシステムの利用を掲載し、業務負担が軽減の事例や報告を掲載することで、新たな人材の確保や人材確保や人材の定着の効果がでてくる（求人効果／人材育成）
- ・業務での運用が固まっている（効果的な運用、適切な休憩時間の確保、アセスメント利用、感染症対策等）
- ・見守りセンサー担当者が介護ロボットリーダーとなり、より効果的に運用できるよう法人内の報告・共有を実施
- ・見守りセンサーを追加購入し、より多くの効果が得られるよう運用する

### (4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

・A. I. Viewlifeを導入することで、離れた場所でも複数同時に、早期に転倒・転落等に繋がる危険予兆動作状況を全体把握できるとともに、不要な居室訪問を減らすことができる。これにより、次のような効果が期待できる。

#### 【利用者の居住環境の向上】

- ・センサー鳴動時に、適切な対応を行うことにより、利用者の転倒を予防できる。
- ・転倒後の異常も通知するので迅速な介助を行う事で重度化を防止できる。
- ・A. I. Viewlifeは電波干渉対策されて使用できることから、夜間扉で仕切られた居室でも不要な居室への訪問を行わずに済むことで、夜間等の睡眠を妨げることが無くなり、居住環境が向上する。
- ・録画された画像データの検証により、支援方法の見直しや事故への予防策が事実を元に行え、サービスを効果的・効率的に提供できる。
- ・利用者の行動を詳細に把握し分析が可能のため、自力で行えるはずの行動まで介助を行う事なく、自立支援度が向上する。またベッド上で過ごす時間が定量的に取得できることから、自立支援タイミングのエビデンスデータとして活用が可能となる。

#### 【介護スタッフの負担軽減】

- ・不要な居室への訪問を行わずに済むことで、見守り業務の時間を他の業務に充てることができる。
- ・どこにいても見守りを行えることや、インシデントの際には通知があることから、夜勤帯等スタッフルームなどでしっかり休憩を取ることが可能となる。
- ・転倒事故が減少することにより、経過観察や記録などの業務が減少する。（検知記録データの集積と分析が可能、記録画像の保存・出力が容易なことから報告業務の減少も期待できる）
- ・夜勤スタッフが優先順位を付けて訪室することができる。
- ・事故やヒヤリハットへの対策策定時間の低減、またヒヤリハットや事故に対する再発率の低下も期待できる。

#### 【感染症リスクへの対応と接触リスクの軽減】

- ・訪室回数の低減が見込まれるため、感染症が疑われる利用者とスタッフの接触回数も必要最低限に抑えることが可能となる。
- ・感染拡大防止の取り組みとして、スタッフからの感染拡大の歯止めや新しい利用者からの感染拡大および感染経路把握・対策と活用が期待できる。

(5)適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。	○
--	---

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	×
---------	---	--------	---

見守りセンサーの製品名	
-------------	--

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定	○	既に導入済み	×
---------	---	--------	---

ICT機器の製品名	arrows端末BZ02
-----------	--------------

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

介護記録ソフトの製品名	FT-Care
-------------	---------

⑤従前の介護職員等の人員体制	1.5 : 1
----------------	---------

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制	2 : 1（あくまで理想の数字ではあるが、ただ基本的な考え方としては介護ロボット導入で人員を削減するのではなく、効率化されることでその分の時間を利用者のための質向上に使用したい。）
----------------------------	--

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

- ・日中においては、フロアで過ごされる利用者を見守るスタッフが、フロアで見守りや同一ICT機器を使用した記録を行いながら、システム上（センサー検知による見守りも含む）において居室で過ごされている方の見守りも行えるため、各フロアにおいて見守りに必要な人員を効率化することに取り組む。
- ・これまで見守りに必要であった人員を、より人手が必要な業務に配置することが可能となるため、必要となる場所に必要の人材を効率的かつ効果的に最適配置することに取り組む。
- ・夜間時間帯には、2時間ごとの定時巡回を利用者1人あたり4回実施している。夜勤スタッフ1名あたり約20人の利用者に対応するため、1回の夜勤で80回の定時巡回を行っている。この夜間時間帯における定時巡回を、センサー導入が完了した入居者については4時間ごととし、定時巡回の回数を50%減にする。減少させた定時巡回の時間には、システム上で巡回を行うことで、これまで同様のサービスの質は担保される。定時巡回以外のその他の巡回はセンサー検知のみとする。これにより、定時巡回の回数減少による、夜勤スタッフの身体的負担は大幅に軽減することができ、更に常にフロアにいたがらの休憩でなく、スタッフルームなどで休憩時間を確保することも可能となるように取り組む。
- ・記録ソフトへの入力も見守りセンサーの検知や見守りも同じスマートフォンとタブレット機器で可能となるため、どこにいても、ICT機器が手元にあるスタッフなら誰でもその場で記録にも見守りにも対応することが可能となる。これにより、センサー反応があった際、「ちょっといま手が離せないから、〇〇さん、□□さんのお部屋まで対応して!」ということが減少し、自分でICT機器を確認し、対応する優先順位を判断し行動でき、スタッフ1人の行動にかなりの余裕が生まれる。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

- ・居室に実際に訪室しての巡回回数を削減させることができることで、特に夜間は巡回により利用者が睡眠を妨げられるなどがなくなる。
- ・転倒・転落事故のリスクを減少させることができる。
- ・日中については、見守りに必要な人員を効率化することで、効率化された分の人員は余裕をもって休憩を取ることが可能となる。
- ・夜間についても、フロア内の離れた場所に位置する居室内をシステム上で確認できるため、巡回回数の軽減や、余分な訪室を削減でき、身体的な負担を軽減させることができる。また、いつでもどこでも居室内を確認できるため、夜間の精神的な負担も軽減することができる。
- ・巡回回数の軽減で、夜勤スタッフの休憩時間の確保も可能となる。センサー反応によるフロアと居室の無駄な往来（従来はセンサーが反応すると必ず居室へ出向き状況確認していたものを、見守りシステム上でどこにいても可能にさせる。）を減少させる。

介護ロボット導入計画書

法人名 ( 医療法人 豊和会 )  
 介護事業所名 ( 老人保健施設かづえの郷 )  
 介護保険事業所番号 ( 2353080035 )  
 サービス種別 ( 介護老人保健施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	眠りSCAN

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
2023年2月	30台	2023年1月	

(1) 事業概要及びスケジュール

事業概要

見守り支援システム「眠りSCAN」を使用することにより、業務効率、介護従事者の負担軽減、利用者様へのケアの質の向上を図る。

- ・利用者様の情報 (睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数) をリアルタイムで可視化
- ・利用者様の状況に合わせてのケアを行うことが出来る。

導入スケジュール

補助金交付決定後、速やかに導入する。(令和4年度 2月導入予定)

(2) 導入する意義・目的

職員の精神的・身体的負担の軽減。利用者への提供サービスの質の向上。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・リアルタイムに可視化される利用者様の睡眠状況に合わせ、見回り業務、排泄のケアを行う。
- ・居室内での転倒事故件数を削減させる。(数値目標 30%削減)
- ・リアルタイムモニターにて入居者様の状況を把握することにより、夜勤職員の負担を軽減をさせる。(見守り業務時間 20%削減)

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・利用者の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現。
- ・利用者のQOLの向上。
- ・職員の精神的・身体的な負担の軽減。

(5)適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	眠りスキャン		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定	×	既に導入済み	○
ICT機器の製品名	IPAD		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定	×	既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	ほのぼのNEXT		

⑤従前の介護職員等の人員体制  
 看護介護職員 55名（昼間 20～30名、夜勤 7名）

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制  
 人員体制は同じであるが、見守り業務にかかる時間を短縮し、より質の高いケアを提供する

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

- ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムをPC、タブレットで確認することにより、不要な訪室を避ける。
- ・眠りSCANのモニターを見ながら、タブレットにて介護記録を入力することにより、記録業務低減、安全な見守りにつなげる。
- ・決まった時間での巡視ではなく、「眠りSCAN」の情報を元に、入居者様の状況に合わせて巡視を行うい、余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

- ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、タブレット端末、PCにて入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避け、覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行うことにより、利用者の睡眠時間を確保する。
- ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC、タブレット端末にて、リアルタイムの各入居者様の情報を確認することができるため、休憩時間の確保につなげる。



介護ロボット導入変更計画書

法人名 ( 社会福祉法人美竹会 )  
 介護事業所名 ( グループホームみその )  
 介護保険事業所番号 ( 2372601076 )  
 サービス種別 ( 認知症対応型共同生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	LASHIC-care

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年2月	18台	令和5年2月27日	

(1) 事業概要及びスケジュール

【事業概要】  
 夜間の巡視を訪室から「LASHIC-care」による画面確認へ切替、介助が必要な方に集中ケア  
 【導入スケジュール】  
 購入(契約)：令和4年12月⇒導入：令和5年1月⇒運用開始：令和5年2月  
 研修：①リーダー向け研修会(90分) ②現地スタッフ向け研修会(90分)  
 ③各ユニット毎の運用ルール策定 ④人員配置最適化検討

(2) 導入する意義・目的

超高齢化社会における人材不足・財源不足等の慢性的な課題解決。間接業務から直接業務を増やすことで利用者の自立支援をサポート。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・スタッフ業務負担軽減(2時間毎から24時間見守りへ)、離職防止(離職者ゼロへ)
- ・24時間常時状態把握(巡視5回×25分×2ユニット×30日=125時間削減)  
 ⇒ケアの質と稼働率のUP⇒病気がけがを予防

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

「LASHIC-care」センサーによる状態把握で夜間訪室頻度を抑制し、スタッフ業務負担軽減。直接業務に使用できる時間が増えることでケアの質を高める

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	LASHIC-care		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
ICT機器の製品名	スマートフォン端末 (iphone)		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	WINCARE HIMVIT		

⑤従前の介護職員等の人員体制

16名 (非常勤職員含)

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

14.5名 (非常勤職員含)

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

見守りセンサーのデータログと介護記録ソフトによる職員の観察記録を照合解析し利用者へのモニタリング、アセスメントに活用する。利用者の特性や行動予測を介護計画に生かし先取りしたケアを目指す。職員の負担軽減、虐待防止、考えることに主眼を置いた積極的な介護を目指す。利用者への寄り添いをより重視した介護スタイル、事故防止や非常対応のためインカムを活用するだけでなく、離床などのセンサーアラートをインカム音声で受信することでより迅速にリスク対応を行う。これによりユニット間の連携も図れることから深夜帯を中心に業務の効率化と人員配置の削減を可能にする。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

利用者のプライバシーに配慮しつつ体調変化の把握や事故防止などの安全対策を図り、データを活用した介護計画の策定を行うなどケアの質の向上を目指す。特に夜間など不要な訪室を削減することで職員の休憩時間を確実に確保するだけでなく、バイタルのモニタリングによる職員の心理的な負担も軽減する。

### 介護ロボット導入計画書

法人名 ( 社会福祉法人 杏園福祉会 )  
 介護事業所名 ( ひびのファミリア )  
 介護保険事業所番号 ( 2370901593 )  
 サービス種別 ( 介護老人福祉施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	眠りSCAN

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年3月1日	100台	令和5年3月1日	

**(1) 事業概要及びスケジュール**

◆事業概要  
 機器の導入により、見守り業務（特に夜間）の業務効率向上と職員負担軽減を図る。

◆スケジュール  
 交付決定後に速やかに機器を購入すると共に、2月末までにネットワーク環境の整備を実施。  
 2月中に職員向けの説明会を行い、3月から全入居者に対して使用開始を目指す。

**(2) 導入する意義・目的**

まずは入居者の安全と安眠確保、職員の負担軽減を実現する。  
 その後はメーカーからの助言の元、睡眠リズムを根拠とした入居者支援計画の見直しを実施する。

**(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)**

今年度中は入居者の睡眠状況を踏まえ、起きている時間帯での排泄介助を徹底する。  
 またモニターとなるタブレットを協力ユニット職員へ渡し、仮眠を伴う90分の休憩時間の確保を実現する。  
 次年度からは睡眠リズムを根拠とした、施設サービス計画や24日シートを全入居者に対して作成する。  
 また夜勤負担による離職者を限りなく0人に近づける。

**(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等**

- ・安眠中の排泄介助によって、入居者の睡眠が中断される事が無くなる。
- ・目視による巡視以外の手段が増える事により、急変などに迅速な対応が出来るようになる。
- ・各種計画書などが、根拠を持った内容へ強化される。
- ・職員の安心や安全が確保された休憩を取る事が出来る。



(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認  
 ※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	◎	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	眠りSCAN		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	◎
ICT機器の製品名	ケアパレット		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	◎
介護記録ソフトの製品名	ほのほのNEXT		

⑤従前の介護職員等の人員体制

8時間夜勤・ユニット5名体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

12時間夜勤・ユニット5名体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

- ・眠りSCAN導入のにより、夜勤帯での90分休憩を確保
- ・スマートフォンやタブレット端末を早番と遅番に支給し、手薄になる日勤帯の連絡手段を確保
- ・記録ソフトの申し送り機能を活用し、入居者への直接支援時間を確保

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

- ・同フロアの逆ユニット職員へ眠りSCAN用モニタータブレットを渡し、休憩中の応援体制を強化
- ・睡眠中の排泄介助を実施する事を避ける事により、入居者の安眠を確保
- ・睡眠リズムの把握に伴い、各種ケアに根拠を持って取り組む事が出来る
- ・家族への状況報告についても、客観的な記録に基づいて実施が可能となる

介護ロボット導入計画書

法人名 ( 社会医療法人財団新和会 )  
 介護事業所名 ( 介護老人保健施設さとまち )  
 介護保険事業所番号 ( 2353180041 )  
 サービス種別 ( 介護老人保健施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	介護業務支援
	②介護ロボットの製品名	眠りスキャン NN-1520

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
2023/1/30	13	2023/1/25	

(1) 事業概要及びスケジュール

利用者様の睡眠リズムを把握することで、個々のリズムに合わせた排泄介助による安眠時間の確保、半覚醒状態による転倒リスクの軽減を図る。これにより夜間の定期的な巡視を廃止し、職員の夜間の休息時間の確保を図り、職員の定着、離職率の低下に繋げる。また、利用者様の転倒リスクに対しては、覚醒状態を確認した上での訪室とすることで、不要な訪室による利用者様の覚醒を防止することが可能となるため安眠確保につなげる。  
 既存の台数では実現できなかった上記取組みの強化および定期巡視の廃止。  
 【導入スケジュール】  
 1月中に設置対象利用者様の選定。1月25日に施設に機器を導入。1月20、24日に職員説明会を実施、1月25日に機器の設置とPCおよびタブレットへの登録。1月26日より稼働開始予定。

(2) 導入する意義・目的

上述の通り、職員の夜勤時間帯の巡視の廃止に取組み、休息時間の確保につなげる。また、利用者様の安眠時間の確保、排泄リズムの把握による適切な排泄介助、半覚醒状態における転倒の防止につなげる。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・利用者様の睡眠リズム把握により、利用者様の睡眠効率5%以上増加。
- ・介護職員の夜勤時間帯の休憩時間の100%消化。
- ・夜間時間帯の巡視業務の廃止。
- ・睡眠時間とリハビリの効果の検証および学会発表1本/年
- ・呼吸状態の把握による誤嚥性肺炎の発生軽減 (入院50%削減)。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・利用者様の睡眠パターンの把握と、排泄介助の適正化による利用者の安眠時間の増加
- ・覚醒状態の把握による無駄な訪室 (による覚醒機会) の削減。
- ・睡眠パターンの把握による、夜間定期巡視の廃止や適切な排泄介助リズムの構築。
- ・夜間の排泄介助リズムの把握を退所前指導に活用し、退所後の家族負担軽減。
- ・呼吸リズムの把握による、通常期 (ターミナル期) の体調変化の早期発見と対応。

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認  
 ※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
見守りセンサーの製品名	眠りスキャン NN-1520		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
ICT機器の製品名	iPad		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	ワイズマン		

⑤従前の介護職員等の人員体制

夜勤職員5名

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

夜勤職員5名（定期巡視の廃止）

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

眠りスキャンの状態表示をタブレットで行うことで、フロア内のどこに居ても離れた位置にいる利用者様の状態を把握することが可能となり、また、眠りスキャンの機能を有効に活用することで定期巡視を廃止し、利用者様の睡眠リズムに則った排泄ケアが行えることで、利用者様及び職員双方の負担軽減となる。見守り機器と介護ソフトの間には直接的なつながりは無いが、タブレットにて介護記録が行えることで、夜間の巡視時には、利用者の睡眠等の状態をその場で記録することが可能となり、これらの機能を組み合わせることで、夜間時間帯の介護職の動線が大幅に削減できると考えている。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

上記の取組みにより、夜勤者の巡視の廃止および動線の効率化により、現在時間を区切って取っている休憩時間を連続した時間で取れるようになる。また効率化が図れることで個々の職員の稼働時間削減にもつながり、疲労感の軽減および心理的な負担感の軽減が図れるものと考えられる。



介護ロボット導入計画書

法人名 ( 社会医療法人杏嶺会 )  
 介護事業所名 ( 老人保健施設やすらぎ )  
 介護保険事業所番号 ( 2352280024 )  
 サービス種別 ( 介護老人保健施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	眠りスキャン

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年2月1日	10台	令和5年2月1日	

(1) 事業概要及びスケジュール

主に夜間帯の利用者の睡眠状態を把握することで、ケアの個別化と業務効率向上を図る。インカム連携されており音声での状況把握も可能となる。既に眠りスキャンを使用しており (20台) 使用方法は周知済みである。追加での導入となるため購入後、すぐに使用を開始する。

(2) 導入する意義・目的

利用者の生活リズムを把握し、個別のタイミングでの支援が可能となる。必要なケアを必要なタイミングで行えることで、職員の業務負担軽減を図る。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

夜間の睡眠状況の確認により個別ケアを実現する。夜間帯を中心に必要なケアを把握し、ケア方法を周知することで、安全な退所を促進し、施設から退所した際も利用者目線の個別ケアが提供されるように促すことができる。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

夜間の不眠の原因等を検証し、不必要なケアをなくすことで効率化が向上し、職員負担が軽減する。追加導入により、より多くの利用者の睡眠状況等を把握することが可能となり、ケアの個別化が実現する。

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	○
見守りセンサーの製品名	眠りスキャン		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
ICT機器の製品名	クリアトークカム		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	ワイズマンASP、すぐらくタブレット		

⑤従前の介護職員等の人員体制

全フロアを統括する介護職員を毎日1名配置

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

全フロアを統括する介護職員を廃止

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

眠りスキャンにて、利用者の睡眠状況や覚醒状況の把握ができ、インカムと連携していることで音声通知により、適切な時間での適切なケアと適切な人員配置が可能となる。  
介護記録ソフトにてパソコンの他、タブレットでの記録入力が可能であり、各職員が適宜記録入力を行うことができる。フロア間を移動することなく利用者の状況把握ができる。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

各利用者の睡眠状況が把握できることで適切な就寝時間が分かり、また排せつタイミングも個別対応が可能となる。介護業務の分業化を推奨しており、直接業務は介護福祉士が行い、間接業務を無資格者で対応ができるよう、ケアの必要性を見直し、介護記録での情報共有が図られ、職員の誰がケアをしても同じ成果が得られるようにする。  
記録方法や申し送り業務の一元化、不必要なケアを省き時間を割り出すことで、適切な休憩時間が確保することができる体制をつくる。